

専門（心理判定員）

一般心理学

文章理解モデルに関する次の文中のア～ウに入る語句がいずれも妥当なのはどれか。

キンチュ（Kintsch, W.）らは、文章理解の結果、読み手の心内に構築される意味の表象を、読んだ文章自体についての命題的な表象である〔ア〕と、読み手の知識構造に読解した情報が統合された〔イ〕とに区別した。なお、〔イ〕は必ずしも言語的表現をとるわけではないが、読み手はこれを心的に操作することで、テキストに明示されていない事柄の推論や他の場面への応用が可能となる。このような学習を〔ウ〕と呼んでいる。

ア	イ	ウ
1. テキストベース	状況モデル	テキストの学習
2. テキストベース	状況モデル	テキストからの学習
3. テキストベース	意味ネットワーク	テキストの学習
4. 状況モデル	意味ネットワーク	テキストからの学習
5. 状況モデル	テキストベース	テキストからの学習

（正答 2）

一般心理学

知能に関する理論を提唱したスピアマン (Spearman, C.E.) についての記述として妥当なのはどれか。

1. 知能テストの結果について因子分析を行い、知能は「言語理解」、「空間」、「数」など7種類の異なる基本的精神能力の因子から成ると主張した。
2. 種々の知能検査間に見られる相関関係の分析をもとに、知能はあらゆる知的活動に共通して作用する一般知能因子と、それぞれの知的活動に固有な特殊因子の2種の因子で構成されていると主張した。
3. 知能テストの因子分析の結果から、複数の因子の上に二次因子として流動性知能と結晶性知能を仮定し、知能はこれら二次因子の共通性を説明するさらに上位の一般因子を頂点とした階層構造として表現されるとした。
4. 知能理論には、それを支えるコンポーネント理論、経験理論、文脈理論の三つの下位理論があるとし、それぞれがさらに下位の理論に分かれるという階層的理論体系を提唱した。
5. 従来の知能理論に音楽やスポーツなど芸術・表現領域の知能や、自己と他者の理解という対人的知能を加える重要性を指摘し、多重知能理論を提唱した。

(正答 2)

応用心理学

統合失調症は主な症状の違いによっていくつかの病型に分けられることがある。次の記述によって表される病型として妥当なのはどれか。

陰性症状が中心となる病型であり、感情が鈍麻して意欲ややる気が失われ、自閉的になる。また、独り言を発し、にやにやと理由もなく笑い、しかめ面をしたり眉をひそめたりすることもある。統合失調症のなかでも思春期から青年期にかけて発症しやすい病型である。

1. 破瓜型
2. 折れ線型
3. 緊張型
4. 非定型
5. 妄想型

(正答 1)